

岩城新聞

行發日八十二月五... (Publication info)

讀書について (下)

大高生

静かなる自己省察を飛びの用心を必要とする。...

賀小野智一君卒

業明法大學 珠雲 小野務平

著書「理解せんとするに先づその準備として一歩退いて静かに著者の見當とも同方向を向く様に努力しなればならぬ。...

古き句帳より

石橋 柴子

○河鹿宿背山をばたつ星明り... ○花あさみ杖もてうてば手にこたふ... ○花あさみそのときいろによれて見む

病床にて (三)

天久生

發熱臥床してある君に「病んでゐてゐる君を前にしては、いふのは不逞だが、いふから、そつと自分もな...」

講談

中川雨之氏作

隠密小天狗

近藤 鐵氏書



歩前へ進み出た。『初めにお目に掛ります。お噂はかね、丸橋氏から承はつて、一度はお會ひたいと思つて居りました。...

俊作に取つて、それはとどろき過ぎると思ふほど。『あ、此處が好いでせう。』と、三郎兵衛が云つた。『うむ、綺麗だ。よからう。』と、俊作は、いふ。...

それから忠實は、猶ほ、順に他の二人をも引合はし、夏の間、藤の上へ、初年を取つた方の武士は、柴田三郎兵衛で、若い方は金井半兵衛であつた。...

北川外科 外科一般 内臓外科 レントゲン科 泌尿器科

端午節句の飾 武者人形 御座敷職 大特賣

産科 婦人科 花柳病科 午後住宅 入院應需

天井板、ベニヤ板 刃織田材木商店

ガソリン不要 鋼脚あり 力強く只一言 絶対優良

安齊醫院 病室増築、手術室完備 婦人科 醫學博士

橋本屋商店 新緑の 小瀧 招く

鈴木醫院 内科、小兒科 平市銀治町八番地

舎大 比佐棟雄

井尻七三郎商店 各種工具類 現在庫品

鈴木醫院 各種工具類 現在庫品

明後廿日を期して 愈よ最後の試鑿

湯本温泉復活工事略は完了

案突たる炭礦から再び情勢急変か以前の湯治場
に還元せんとする湯本温泉の復活工事は既報の如
く疾うに湯治場二千五百尺の掘進を終了し、既に
一月以前に於て所在の確證を握つた湯脈に對し
明後三十日を期し愈よ最後の重要作業たる試鑿の試
験を断行する事となり關係者一同最極限の張り切
りを見せらる。同時に之に要する噴筒(日立製
五十馬力)二台も据まつけるばかりになつてゐる
が市内配泉用の鐵管は時節柄極めて品薄且つ途て
つも無い高値で決して購入の時難くないと云ふ處
から適當の節々来る迄大勢を觀望する方針なので
各戸の浴槽に清潔な温泉が溢々と流へらるる迄に
は尙ほ若干の時間はあるが地下を相手とする未必
的の險々な事業として一部の執拗な反對を受け乍
ら町當局が固き信念の下に断行した復活計劃は兩
三年に亘る長い時間と數萬圓の巨費を投じた結果
懸念された無駄骨に終らず愈よ近き實現する迄に
漕ぎつけたわけである。

昨日の市會から

公益質屋條例成る

十ヶ條中利子修正

平市會は昨二十七日午後一時半招集、既報條件を
附議して四時過ぎ閉會した。
市内白銀町に開設される金一、質物は日用品、衣類、
盆蓋類等は全部で十條の 陶磁器其他確實なる動産
うちその利子一ヶ月一分、貸付金は質物を評價さ
二厘とす。
十厘以上は一割、十厘以
下を一割二分、一〇五十一、取扱時間は午前九時
鐘以内は無利子
とすることに修正された外、休日(毎月十日、二十五
日)原案通り可決された、細則
の主たる事項左の如し

平商建築工事委員

起債七萬九千六百圓と決つ
た平商建築工事は既に敷地の
埋立も了したので近く建築
に着手する、市長推薦の建
築委員方の如く決定
矢吹、大谷、馬目、大嶺
萩原、酒井、吉田(資)
鈴木、堀川、川崎
訴訟和解決定、市内
大町横田父子との損害賠償
請求訴訟の和解は原案通り
可決、請求額八百二十六圓
十九銭はこれを來月から十
七年四月迄分割受領する

中陣を聴く

(157)
小生出征以 願れば昨年十月二十日吳ならず、〇〇の南京米にて
來早や茲に 淞上陸後直ちに第一線に參する日の食となし又雨の中
〇に垂れと致加而しての堅壁を誇りての泥沼のやうな中での難行
し居ります、老練宅並に馬家宅の戦闘軍、併し敵部南京城を陥落
其間銃聲の響きにトツンを切りました、せしめ威風堂々と入城の時
々様には一方後大進軍に移り東奔西走問こそは今迄の斯うした幸
ならぬ種々御各地の戦闘、馬匪賊の掃蕩、苦は何處にやら去りて只々
世話を相成と至る處に敵を滅滅し、敵の連隊のみでた、それ
の聞食等は勿論思ふ様にか、又吾が〇〇團は進軍
斯うした建設の裏には到底

前途程遠きを思ひ 一層の奮闘を期す

神谷村出身 佐藤峯義君(項)

野城嶺附屬病院院長田政誠誠の人格者であつた丈
次郎氏は昨報の如く、當代各方面に於ける哀憤の情も
醫學の最善を悉くした手當 一入深刻なものがある
その効なく遂に幽界に歸
出たが右は既に居無し
りてなく、既に現在盛ん
に読んでいる『長門』の
『まぐら』の方が價格に於
て遙かに割合が良い爲めに
して全山職員従業員から慈
父の如く仰がれて居る温情
であるとの事である

熱情信義の塊り

故會田警炭院長の風格

あす自宅で告別式執行
警炭院警炭院長故會田政誠誠の人格者であつた丈
次郎氏は昨報の如く、當代各方面に於ける哀憤の情も
醫學の最善を悉くした手當 一入深刻なものがある
その効なく遂に幽界に歸
出たが右は既に居無し
りてなく、既に現在盛ん
に読んでいる『長門』の
『まぐら』の方が價格に於
て遙かに割合が良い爲めに
して全山職員従業員から慈
父の如く仰がれて居る温情
であるとの事である

鯉は割が悪い

既に三回目の出動

縣指導船隻隊を以し江
名宿六隻の鯉船は既報の通
り引續き千葉縣野島沖二百
四、五十海里の漁場に出動
中、指導船からの通報は
入らぬが江名宿の船は
(第一回)長清藤丸
一、三〇〇尾 福田丸一、
二〇〇 榮丸一、二〇〇
〇 盛厚丸一、〇〇〇
明方丸一、三〇〇
(第二回)清丸五〇〇
盛厚丸一、三〇〇 榮丸
丸一、六〇〇
を釣獲し既報三隻が既に
三回目の出動をした漁況は
大体こんな具合、鯉は一向
出たが右は既に居無し
りてなく、既に現在盛ん
に読んでいる『長門』の
『まぐら』の方が價格に於
て遙かに割合が良い爲めに
して全山職員従業員から慈
父の如く仰がれて居る温情
であるとの事である

暴行豫審 浪江町

あつたが指導に當る商工省
所では縣からの通報に基き
縣警次吹ヶ原團地に移住
者を發見してゐる、詳細同
所に問ひ合せの上七月末迄
開審移住者發見、平市役申
込込まれた

怒り性ない只飲男

四倉町鈴木平方漁夫折笠
良二(三)は町内で數回の
只飲みを働き二十六日送局
されたが既報時、ところ
が怒り性もなくその歸途午
後八時頃無一文で市内南町
飲食店あさひやと引地
め方に登樓し七圓餘をロハ
飲みして平署へ一同署で
もその圓をさしに呆れてゐ
る

場所は第三校附近

授産場計劃す、む
昨報、講義館と共に平市社會課が計劃して居る
授産場は大体工費五千萬で第三小學校附近にそ
の建築敷地を物色してゐる、この事業は社會事
業助成會の手によつて進められる筈であり、總工
費五千萬のうち三井物産會から約半額の補助
があるものである

斯んなこともあり記

小名濱商港後日物語

赤井 嶽 男
一步として小名濱港に三
百八十八萬圓の築港をす
ることに就て本縣會同
志を糾合しこれが通過に
努めたが政黨の分野は顯
明に來し民政黨は大多數
黨となつた爲め國民黨
に重大關係ある縣民多數
の要請して居る此の學業
に反對して黨利黨略を圖
るが如き政黨に居るに忍
びないから脱黨をして目
的の貫徹に努める積りで
居る

辭令

佐藤 辰雄
命本縣農産物検査吏員
平支所支所長出張所勤務
松本 虎清
同平支所支所長出張所勤務

高久病院

内科 小兒科 外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
新海醫學士 赤羽 久
藥劑士 佐竹 菊
看護婦(至急募集)

平庶民金庫

有限責任信用組合平庶民金庫
東京大東院九月二十六日午後九時
逝去候間此段御通知申上候
追而告別式五月廿九日午後二時
於佛式ニヨリ相替可申候
昭和十三年五月廿八日
福島縣石城郡内郷村
妻 會田 栄太
子 會田 栄三
長子 會田 栄一
次子 會田 栄二
三子 會田 栄三
四子 會田 栄四
五子 會田 栄五
六子 會田 栄六
七子 會田 栄七
八子 會田 栄八
九子 會田 栄九
十子 會田 栄十

父重助儀

父重助儀大病院ニテ加療中ノ處
藥石効無ク二十六日午後五時逝去
致し候間此段御通知申上候
追而告別式五月廿九日午後二時
於佛式ニヨリ相替可申候
昭和十三年五月廿八日
福島縣石城郡内郷村
妻 會田 栄太
子 會田 栄三
長子 會田 栄一
次子 會田 栄二
三子 會田 栄三
四子 會田 栄四
五子 會田 栄五
六子 會田 栄六
七子 會田 栄七
八子 會田 栄八
九子 會田 栄九
十子 會田 栄十

夫會田政次郎

夫會田政次郎儀豫テ病氣ノ處療養
不相叶五月二十七日午後二時五分
逝去候間此段御通知申上候
追而告別式五月廿九日午後二時
於佛式ニヨリ相替可申候
昭和十三年五月廿八日
福島縣石城郡内郷村
妻 會田 栄太
子 會田 栄三
長子 會田 栄一
次子 會田 栄二
三子 會田 栄三
四子 會田 栄四
五子 會田 栄五
六子 會田 栄六
七子 會田 栄七
八子 會田 栄八
九子 會田 栄九
十子 會田 栄十